



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
市議団ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

どなたも? 川底の放射能は 市が調査結果を公表

事故を起こした福島原発から200キロ以上も離れた東京湾の海底から、高い放射能が検出されています。これは、流域に飛散した放射性物質が河川をつうじて海まで運ばれ、蓄積しているた

めだといわれています。本市でも、そこそこでホットスポットといわれる放射線量の高い地点が観測されており、また広く山林にまき散らされた放射性物質が河川に流入している可能性は否定で

きません。市では、市内の川底の砂や小石を採取して、放射能の検査をおこない、その結果をホームページで公表しています。調査地点は図のとおり



市内の河川底の放射性能検査結果 (ベクレル/kg)

採取地点	河川・地点名	水深	採取深	ヨウ素		セシウム	
				I-131	Cs-134	Cs-137	Cs-136
①	木皿川・大塚合流地点	43	10	-	65	90	-
②	根古屋川・根本橋	38	7	-	140	180	-
③	八反川・竹の内橋	48	10	-	130	170	-
④	境川・境橋	58	8	-	170	240	-
⑤	関山川・深田橋	35	5	-	74	97	-

※ -と表示したヨウ素131とセシウム136は検出限界を下回っています。検出限界は、それぞれ7ベクレル/kg、6ベクレル/kg。

(採取日は1月25日)

で、①木皿川(磯原町)、②根古屋川(華川町)、③八反川(関本町)、④境川(関本町)、⑤関山川(大津町)の5ヶ所。いずれも採取日は1月25日です。調査結果は、半減期が8日と短い放射性ヨウ素と、半減期が13日とされるセシウム136は不検出でしたが、同134と137が表のとおり検出されています。

市立病院 運営検討委員会から

2月21日、市立総合病院運営検討委員会が開かれました。震災による被害で、いちだんと厳しい運営となっています。

1月から、被災地支援で医師派遣を受けています。短期間で医師が替わるので患者の不安解消に目配りしつつ、いっぽうで医療技術への信頼もあり、また各地の大学からの派遣で、情報交換などの積極面も大きいとして

新年度の予算案には、医師確保のために、筑波大学への寄付講座の委託が盛り込まれています。新病院については、亜急性期やリハビリを中心にする方向で設計変更はあるものの、経費や規模は変えず基本設計がすすめられています。

新病院の開院までのスケジュール

24年3月	実施設計完了
24年4月~	建築構造の資料作成→大臣認定→発注準備
24年7月~	工事入札・発注
25年10月	本体竣工
12月	開院

第1回定例議会/日程

3月7日(水)	議会初日
3月14日(水)	一般質問
3月15日(木)	一般質問
3月16日(金)	産業建設委員会
3月19日(月)	文教厚生委員会
3月21日(水)	総務委員会
3月23日(金)	最終日(議案採決)

3月議会



ひなあかり

5年目となる北茨城の「ひなあかり」。お客様が多かったわりに、ルートマップが減らなかったとか。おなじみさんが増えた?



「安全神話」健在?

県の原子力安全対策委員会。委員の出席は定数の半分ほど。原発側との緊張関係なども感じられませんでした。